

IPL トリートメントで起こり得る副作用について

IPL トリートメントは、顔全体に IPL を照射することで、顔中の様々な光老化の症状を改善し、きめが整い、顔全体を明るくし、素肌の若返りを目指すトリートメントです。稀ではありますが何らかの副作用が見られた場合、その部位が完全に治癒するまで施術は中止してください。施術中若しくは後に起こりうる可能性のある最も一般的な副作用は次のとおりです。

- パルス照射時、ゴムではじかれるような痛みや、ひりひりした痛みなどの不快感を覚えることがあります。
- かさぶた、若しくは水ぶくれ等ができ、治るまで5日から10日程度かかる場合があります。
- 施術部位に痒みや毛包周囲に赤みが出現する場合があります。その部位を十分に冷やすことで軽減できる場合もありますが、症状が持続する場合があります。
- 熱傷によって痂痂や水疱ができる可能性があり、治るまで5日から10日程度かかる場合があります。
- 治療部位に色素沈着及び色素脱失の変化がおこることがあります。通常3ヶ月から6ヶ月で薄くなるが、稀に色素変化が恒久的な場合があります。
- 肥厚性痂痂のような痂痂が起こる可能性も僅かにあります。稀ではあるが異常広範浮揚ケロイド痂痂が起こることもあります。痂痂が起こる可能性を少なくするには、治療後の指示全てに注意深く従うことが重要です。
- 治療直後、特に鼻と頬の皮膚が一時的に腫れることがあります。通常の腫れは数時間でひき、長くても7日程でひきます。
- 治療部位もしくはその周辺の皮膚が虚弱になることがあります。表皮剥離の可能性があるので治療部位を強くこすらないようにしてください。
- 青紫色の挫傷（紫斑）が5日から15日程治療部位に現れることがあります。薄くなるに従って、さびのよ様な茶色い変色がみられることもありますが、これも1ヶ月から3ヶ月で薄くなります。